

# 風土記の丘の花だより<sup>164</sup>

今、そしてこれから見られる植物(2022年12月10日)

寒くなってきました。残り少ないリュウノウギクや、北風を受けて日に日に萎れるツワブキを見ると、更に寒くなってきます。サザンカや、スイセンの園芸品種が咲いている位で、本当に花が少ない季節です。というわけで、今回、花はナシです。



柳川家の北側の通路沿いでトベラの実がはじけて赤い種子が見えています。トベラは他に仲間の少ないトベラ科の木です。この木の学名は *Pittosporum tobira* です。前の方はこの際さておき、あとの *tobira* は入り口の扉のことです。この木には少し臭みがあり、厄除けに入り口の扉に飾る風習があったそうです。それでそれがそのまま学名になったようです。ちょっとした豆知識でした。



修復古墳の東側に植えられているフウが色づいてきました。これをご覧になる頃にはもっといい色になっていることでしょう。和歌山市内では日前宮や向陽高校の北側の道沿いの並木がよく知られていますね。カエデみたいですが、別の種類です。漢字で書くと楓、日本ではこれは「かえで」と読みますね。それでややこしいのです。そんなややこしいことは抜きにして、きれいな紅葉を楽しみましょう。



よく似た実がなっています。左がジャノヒゲ、右がヤブランです。どちらも細長い葉の草ですが、ジャノヒゲはヤブランに比べて細くて、株も小さいです。ヤブランの実が株から立ち上がりますが、ジャノヒゲは根元をかき分けて探さないと分かりません。どちらもキジカクシ科の草です。



最後はシダです。名前はタチシノブ、林の周辺など、どこにでも生えるごく普通のシダです。葉の先はとがっていて、とても細かく分かれています。胞子を付ける葉は写真のようですが、付けない葉は少し幅が広い感じで、別の種類のように見ることがあります。「吊りしのぶ」のシノブとは違う種類です。松下